

熊谷税務署長賞

租税制度の正しい理解

熊谷市立富士見中学校 三年 山崎 陽子

「今年の税制改正は生活に影響するものばかりだな。」新聞を読んでいる父が言ったその言葉で、私はテレビのニュースでビールやたばこの値段が上がること、そしてその値上げは税制改正と関係があると伝えていたことを思い出しました。

父の説明によると、いわゆる第3のビールと呼ばれるビール風酒類の税額が、一缶(350ml)あたり24.2円から28円にあがること、ビールの税額は77.7円から77円に下がること、発泡酒の税額は47円のまま変わらないことがわかりました。そしてこの酒税は、アルコール度数やお酒の種類によって決められていて、国に納める「国税」であり、税を納める人と負担する人が異なる「間接税」であることも知りました。

私は、酒税以外の税金について知りたくなったので、一番身近に感じている消費税についてインターネットで調べてみました。消費税は間接税で、最終的には商品を購入したり、サービスの提供を受けたりする消費者が負担し、事業者が納税します。事業者は、消費者から受け取った消費税と、商品などの買い取りのときに支払った消費税との差額を納税することになります。消費税の税率は4%、地方消費税の税率は1%、これらを合わせて5%の税率になります。消費税の納税と申告は、事業者が自ら税額を計算して申告をする申告納税制度です。消費税などの申告納税はインターネットでも可能で、e-TAXといわれています。このシステムは、多忙や交通事情などの理由で申告納税に手間がかかる場合には、大変便利なシステムだと思います。

私は、税の仕組みがとても複雑なものであり、社会生活を送るためには税の仕組みを正しく理解していなければならないと感じました。なぜならば、日本国憲法は第30条に「納税の義務」を定めています。この納税の義務は「勤労の義務」「普通教育を受けさせる義務」となっており、国民の三大義務の一つとされています。国民の一人として、納税の義務を正しく果たすためには、税の仕組みを正しく理解することが必要だと思います。

税金は、私たちの教科書や校舎改築などの学校教育、宇宙開発やITなど情報通信の研究、医療や福祉など社会保障、道路や公園の整備など、私たちが健康で豊かな生活を送るためにいろいろな使われ方をしています。公立中学校の生徒一人あたり、一年間の教育費に約94万円の税金が使われていることは一つの驚きでした。

これからの日本は、少子・高齢化がさらに急速に進む状況をふまえて、国民が安心して暮らせる社会保障制度などの構築が必要になります。そのためにも、私たちは租税制度を正しく理解し、正しく税金を支払い、その税金が使われることを見守っていくことが大切だと思います。